

文化



映画監督 片桐直樹さん

映画人の意地を

「僕は、昭和一ケタの最後の年（1934年）の生まれ。戦時中は疎開して、戦争の悲惨さは身にしみていますから、憲法を愛することが話題に

とする思い。それが、映画を作るきっかけでした。「やるべきことをやらないからこうなった」という反省です。「日米開戦の1941年からさかのぼる10年の日本の侵略の歴史が教えられていないし、戦後、自分たちがたたかっ

た歴史もきちんと伝えていない。平和憲法がなぜ生まれて、公布以来60年、国民はどう向き合ってきたのかを検証しよう、映画人であるからには、映画で描こう、と思いを立ちました。「映像心がけたのは、「映像そのもので見せる」こと

戦争をしない国 日本 に寄せて

「今があるのは、憲法を守るたたかいがあったから」ドキュメンタリー映画・シリーズ憲法と共に歩む第1篇「戦争をしない国 日本」の自主上映に静かな感動が広がっています。昨年11月に完成してから、2月までに100力所以上で取り



1946年11月3日に東京都主催で開かれた「日本国憲法公布記念祝賀都民大会」（映画「戦争をしない国 日本」から）

ドキュメンタリー映画

シリーズ憲法と共に歩む第1篇

「戦争をしない国 日本」=90分、38分（短縮版）の2種。上映センター ☎03(3358) 8169。http://www.filmkenpo.net/

日本国憲法が、政府に命じられるべきもの。



「110の意味で、こんな日本ではなかったはずだ」ということが感じられる映画です」と伊藤真さんは、語ります。

伊藤さんは、81年、東京大学在学中に司法試験に合格し、95年、憲法の理念を実現できる法曹界の人材を養成する伊藤塾を開校。片桐監督の「日独裁判官物語」（99年）が司法制度改革への刺激を与えたことで映像の力を

0年代から最近に至る日本の歴史的事実を知るのには、大切なことです。憲法について年に130回近く講演。若い世代から敏感な反応があると

伊藤真さんは、81年、東京大学在学中に司法試験に合格し、95年、憲法の理念を実現できる法曹界の

「民主主義や人権、立憲主義」という憲法価値は50〜60年で浸透するものではないと語りますが、



伊藤塾塾長 伊藤 真さん

ピンチはチャンス

「ピンチはチャンスだ」の思いで一喜一憂せず前に向かっていきたいものです」